

## 大平地域包括支援センター 担当

✚ 日 時： 令和5年11月15日（水）午後1時30分～2時

✚ 開催方法： 栃木市役所大平総合支所 第3会議室

✚ 事例数： 1ケース

✚ 参加者数： 14名

事例提供者1名、助言者6名、サービス事業者2名

包括職員2名、傍聴者3名

## 心身機能の維持に積極的な 80 歳女性

〈目標〉1日:安全に移動し、転倒しない環境作りが行える。

1年:定期的に運動する機会を持ち、筋力の維持ができる。

利用サービス：通所リハビリテーション、福祉用具貸与

### 《生活全般の解決すべき課題（ニーズ）》

- ・入院後の長期臥床により、右上肢の挙上困難や下肢に違和感がある。リハビリの継続や福祉用具を活用することにより、動作の容易性の確保や歩行の安定性を図りたい。
- ・通院負担を考慮し近場の病院へ変更したいとの希望があるが、主治医変更への精神的な不安がある。

### 《助言者からの助言内容》

- ・主治医変更に不安があることについて、現在通院している大学病院と地域の病院を併用して受診すると良いのではないかと。本人の気持ちを確認しながら少しずつ地域の病院へつなげるとよい。
- ・口腔機能の状態を維持していくために、定期的な歯科受診は継続していくことが望ましい。
- ・現在の内服薬は副作用がみられていないため、現状維持で良いと思われる。
- ・編み物や旅行など趣味を通して、楽しみを持ちながらリハビリを行うことが大切である。
- ・食事動作時に手指こわばりの状態を確認し、必要に応じて声かけやアドバイスを行う。
- ・地域の社会資源として、通いの場はゆうゆうプラザなどの老人福祉センター、移動方法は截タクが選択肢として考えられる。



**編み物や旅行などの趣味を通して、楽しみを持ちながらリハビリを行えるよう支援していく。また、主治医変更への不安な気持ちに寄り添いサポートを行う。**

### ☆地域課題（地域に不足、再構築を図りたい支援・サービス等）

- ・在宅療養者を支える訪問看護及び薬局薬剤師などの職種の役割を含む情報の周知が不足しており、啓発活動が必要である。